

大正末期から昭和初期の国産遊技機 (パチンコ台のルーツを訪ねて)

1. はじめに「球遊機」という名の国産遊技機

図1～3は、神奈川県横須賀市在住でパチンコ文化史研究家の杉山一夫(銅版画家)・さつき(元横須賀市小学校教諭)夫妻がその調査研究の過程で発見した、大正末期から昭和初期にかけて日本国内で製造された遊技機群である。

図1は、1926(大正15)年頃に大阪の遠藤美章商会という会社が「球遊機(きゅうゆうき)」という名前で製造販売したギャンブル機(Gamble Machine)であり、現存最古の国産マシンと考えられている⁽¹⁾。その原型は

ヨーロッパで生まれた「ウォールマシン(Wall Machine)」と呼ばれる機械であり、大正末期ごろ日本に輸入されたものを真似て作られたものと考えられている。コイン(1銭硬貨)を銭入口(図中に矢印で示した部分)に入ると盤面右下に玉が一個出る。それをハンドルで打ち上げ、頂部から盤面に沿って釘など障害物の間を落下させる。入賞穴に入るとコインが戻り、穴に入らないとコインは戻らない。一方、盤面上部にある「満点」穴に入ると盤面下から景品引換券が出てくる。コピー元の外国製「ウォールマシン」では入賞すると高額のコインや代用貨幣が出てくるが、国産機では景品引換券である。

図2は同じ頃(1926～1931年頃)に東京の東洋自動娯楽器商会という会社が製造した「野球自動販賣器」と呼ばれる菓子販売機である⁽¹⁾。菓子販売機とはいえ、図1と同様、コインを入れて玉を出し、それを打ち上げ、入賞穴に入ると大きな菓子が払出口から出てくるギャンブル機であり、構造も大差ないが、入賞しなくても小さな菓子が出てくるなど図1のものより射幸性が弱められている。

これらのマシンの機能は、現在のパチンコ店のように専用施設でなく温泉に併設された遊技場や娯楽施設などに設置されたことや、国民性(射幸心)や警察の賭博取締りに対する当時の考え方などが反映したものと考えられている。

2. 「球遊機」の“進化”に見る社会ニーズと機械の関係

一方、図3は1929(昭和4)年ごろに製造された「岡式電気自動球遊機」というマシンである⁽²⁾。本機の台の表面には実在する特許番号のプレートが貼付されており、特許に基づいて製作された現存最古のマシンと考えられている⁽³⁾。ところが、実物は特許図面より構造が簡単であるだけでなく、本機の製造初年より古い図1および2のマシンと比較しても簡単になっている。すなわち、コインを入れて玉を打ち上げるまでは同じであるが、入賞穴に入ってもベルが鳴って豆電球が点灯するだけである(機械の裏にいる人間が電球の点灯等を確認して払出口から硬貨を出した)。これは、自動であった

景品(硬貨)払い出しの機構が省略されて手動になったことを意味する。おそらく、使用目的から機構が簡単で、安い機械のほうが好まれたため、そのような構造になったものと思われる(特許もマシンの“箔付け”程度の意味しかなかった?)。時代の進展とともに多くの機械は複雑化・高度化していくのに対し、これが必ずしもそうっていないことは、ギャンブル機とはいえ興味深い。

これらは、室内だけでなく露天商の商売にも使われるようになり、いつしかその遊戯が「パチンコ」と呼ばれるようになる(すでに1935(昭和10)年の新聞には「パチンコ」という文字が現れている⁽¹⁾)。なお、図3のマシンでは表面のガラス板が取り外せ、後のパチンコで不可欠な入賞率の釘調整が可能な構造が採用されている。

「遊技機」の登場から約20年後、戦後の名古屋で「正村ゲージ」と呼ばれるパチンコ台が大量に生産され始め、またたく間に日本中に普及する⁽²⁾。前述のマシン群とは異なり、パチンコ台のメカニズムは年々複雑化し、やがて電子化の波が押し寄せ、現在ではテレビゲーム(死語に近い?)のようになっている。しかし、パチンコ台が「玉を外力により運動エネルギーを与えて台の上部に打ち上げ、障害物の間を落下させながら経路によって異なる点数を獲得していくマシン」であることは昔も今も変わらない。ものづくりにおける技術シーズと社会ニーズの関係は大変複雑なものであるということを、これらのマシンは語りかけているのかも知れない。

3. おわりに

これらの資料は、杉山氏の自宅に300台以上にも及ぶ他のコレクションとともによく整理され、保存されている⁽⁴⁾。が、一般公開対応に限界を感じ、将来のために公的な引取先を探し始めているとのことである。

(原稿受付 2012年6月13日)

[吉田敬介 九州大学]

●文献

- (1) 杉山一夫・ほか, 機講論, 北陸信越支部 2012 総会 (CD-ROM), (2012), 0920.
- (2) 杉山一夫・ほか, 機講論, 214-1 (CD-ROM), (2011), S202024.
- (3) 杉山一夫・ほか, 機講論, 128-1 (2012), 339.
- (4) 杉山一夫, パチンコ誕生, (2008), 創元社.

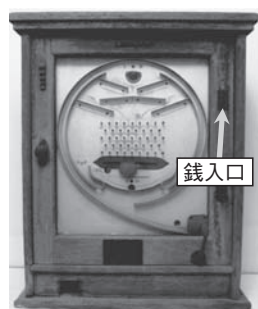


図1 現存最古の「球遊機」

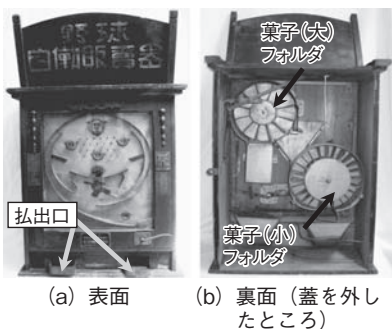


図2 菓子自動販賣機「野球自動販賣器」

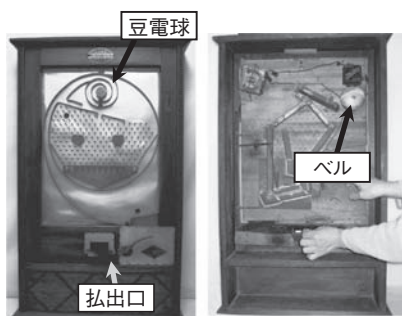


図3 岡式電気自動球遊機